

虫の声と涼しい風に秋を感じる季節となり、診療や学問に適した「頭（あたま）」に切り替わってきました。このたび神経内科領域から長年本誌に貢献されてきました安藤哲朗先生を引き継ぐ形で、本誌編集委員に就任させていただきました。よろしくお願い申し上げます。本誌は脊椎・脊髄の基礎から臨床を扱う学際的な大変ユニークな雑誌です。臨床各科にはそれぞれの歴史や価値観、行動様式といった「文化」があり、それぞれの科の先生は硬い「石（医師）あたま」になっています。同じ一人の患者さんを診るときも各科それぞれの「文化」で異なった診かたをしますので、患者さんはもちろん医師側にも混乱が生じやすくなります。本誌は脊椎・脊髄疾患を扱う各診療科の垣根を低くして「異文化交流」にこれまで大きな貢献をしてきたと思われまます。1988年に創刊され来年で創刊30年を迎え、私の医師人生とともにあった雑誌です。手元に創刊号がありますが、特集は「脊椎脊髄のMRI診断」です。MRIの出現により、脊椎・脊髄疾患の診断と治療は格段に進歩し、まさに隔世の感があります。

創刊号の巻頭には、当時の編集顧問の小野啓郎先生による「創刊の辞」があり、編集方針についてのいくつかの注文が述べられております。その中には、前衛的な積極的主張と同時に現実の診療上の課題を忘れないこと、同人誌めいた独善に陥らないよう健全な批判精神を欠かさないことなどがあり、Letters to the Editor欄の活用を促しています。また、医者だけでなく生物学者や工学者を参入させて、違った眼でみた脊椎脊髄について語ってもらいたいとの希望もあります。これらの点を心の隅において、編集に携わっていきたいと思います。また、神経内科の先生方にも気軽に手に取っていただき、脊椎・脊髄への親和性を高めていただけるように努めていきたいと思っています。

さて、本号の特集は「側方進入腰椎椎体間固定術（LLIF）」です。門外漢の神経内科医には手術のことは「異文化」で、詳細はわかりません。新たな手術法の開発には、勇気や情熱とともに困難に打ち勝つ忍耐と努力がまず必要で、外科の先生方には大変頭が下がります。そして、一例一例の手術経験で常に創意・工夫をしながら、徐々に安定した効果を生む技術が確立されていくものと思われまます。一部の「神の手」に委ねられる手術法ではなく、確実な効果が得られ、しかも安全にできる技術が普及していくことが最も望まれます。合併症の予防はいうまでもなく、漏れのない適切な術前評価と術後管理などチーム力の結集が重要です。第一線で先頭を切って走っておられる経験豊富な先生方による本特集が、LLIFが確実に安全な手術として普及していく一助になると確信しています。

（亀山 隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 10
(2017年10月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。